拓水

TAKUSUI
No. 728

6
June.2017

発行（一財）兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌

香住ガニ最終セリ（香美町）

各団体の通常総会

コープこうべ　産地学習会開催（JF但馬）

《今月の海上安全標語》 ～ 浜まで伺いますよ！～

各ＪＦ・系統５団体で開催している「命を守る運動 海上安全講習会」。内容も工夫されていますよ！
「一度、開催したいな」と思ったら、ＪＦ兵庫漁連指導部（078－940－8013）までご連絡を！ お待ちしています!!

聞いてみたい！ 海上安全講習会
お呼びとあらば　即、参上!! では、今月も安全操業で!

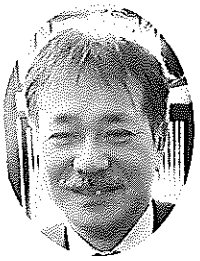
ようそろ

みちのり

～ずっと真っ直ぐに～

（ようそろとは航海用語で「宜しく候」の意。主に船を直進させるときの号令として使われる）

兵庫県農政環境部 水産課長 高木 英男



「ようそろ」に二度目を書くのは私が初めてでないかと思いつつ、懲りずに雑文を書かせていただきます。この春から県の水産課長をしております高木です。

振り返ると昭和59年の春、大学を卒業し県水産課の漁場保全係に配属となりました。

最初の出張は神戸市漁協でのノリ養殖技術試験の立ち会いで、右も左も分からず垂水漁港からスーツ姿で船に乗って、いきなり風邪を引きました。（汗）

続いて、温排水調査の立ち会い、これは県漁連と水産課から出るのですが、関電の発電所調査に来たのは、いがぐり頭の坊主ではなく、いわゆる短髪、ガタイが良く目つきも鋭く、つまりは街で会ったら、できるだけ目を合わさないようにするタイプの人でした。

これが突々専務との出会い（笑）、突々さんも同じ春に県漁連に入って、同期になります。

年齢は私より少し上の先輩ですが、関電の方からの問いに対し、新人ながら漁業者の立場で言うべきことを返されるのを聞いて、見習わねばと思ったことを覚えています。

最初の転勤で、私は但馬へ異動して、香住漁業無線局の送信所と受信所の新設整備工事を担当。無線局の整備はなかなかの難工事で、たくさん残業しました。（涙）

それからズワイガニの増殖場、現在は国営事業で行われていますが、当時の漁場整備は、沿岸漁場整備開発事業という公共事業で、沖合の整備は対象外で認められていませんでした。

しかし、日本海のカニ資源が減っていて、沖合のズワイガニ増殖場を造らせてほしいと、香住から寝台列車に乗って国まで要望に行きました。当時の水産庁の担当班長さんは、中前さんという方で、後に出世されて水産庁次長になられた方ですが、20代半ばの県の若造の話を、とても真剣に聞いて下さり、1年遅れにはなりましたが特例的に事業化が認められ、これが香住沖のズワイガニ増殖場となりました。同時に山陰北陸の各府県でも一斉に整備が進み、その後さらに、複数県が入り会う沖合漁場の整備を国がやってほしいと要望を続けて、平成19年にはフロンティア漁場整備事業が創設されました。この立ち上げには、水産課の漁場整備係長として関わり、20年掛りで願いが実現し、ほんとに嬉しかったです。

話を戻して、但馬の次には淡路に転勤になりました。淡路では、息子も生まれましたし、沼島や淡路漁青連の人達と一緒に、男女交流イベントをしたり、ヒラメの海底養殖試験などで、青年部の人達と仕事した（遊んでもらった？）のは、ほんとに楽しい思い出です。

阪神淡路大震災の話、瀬戸内海再生の話など、書きたいことはまだまだあるのですが、残念ながら紙面の都合により、またいつかこの先のみちのりを書かせて下さい。では。

CONTENTS

No.728 June. 2017

2 ようそろ

3 摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会 通常総会
淡路地区漁協青壮年部連合会 通常総会

4 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
一般社団法人 淡路水交会通常総会

5 淡路漁協職員協議会 通常総会
大輪田塾OB会 摂津播磨地区OB会を開催

6 コープこうべ 水産チーフ 産地学習会

7 ワカメの生産安定化に向けた新たな取り組み

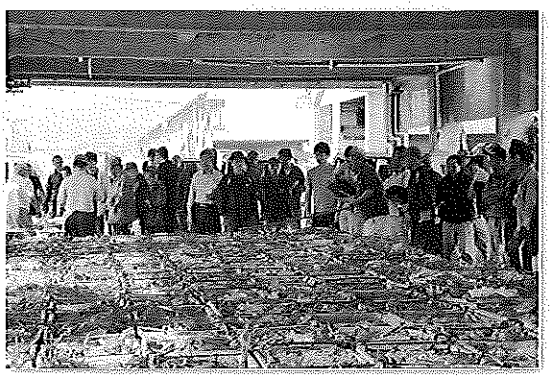
8 海の事故ゼロキャンペーン

9 海難防止研修会の開催
海難事故をなくそう

10 兵庫県知事選挙
大輪田塾 第13期生 募集

11 兵庫JCC通信

12 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

「日本海 沖底・ベニかご漁業 漁期終了」（但馬地区）

今月の表紙写真は、香住ガニ（ベニズワイガニ）の最終セリの様子です。

5月31日をもって但馬地区の沖合底曳網漁業・ベニズワイガニかご漁業（6月自主休漁）が漁期終了となり、各船は整備や日韓暫定水域の海底清掃など漁期とは違う忙しさを迎えます。

これから但馬では、イカ釣り漁をはじめ、釣り・定置網漁・採貝藻漁によるイカ類・ハマチ・サザエ・岩ガキ等が水揚げされ、浜は賑わいます。

大西会長再選 さらなる交流活動の展開を誓う

～平成29年度摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会 通常総会～

5月20日(土)、兵庫県水産会館において、摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会(14会員部員計249名)は平成29年度通常総会を開催しました。冒頭、大西 正起会長(JF伊保)は「平成28年度は、安全講習会や資源管理など様々な取り組みを行い、引き続き魚食普及活動の推進にも邁進してきた。中でも大学生協との「LOVE SEA丼」食材提供も約4年となり、兵庫県下7大学、14キャンパスまで拡大するする喜ばしい結果となった。しかしながら活動が大きくなるにつれ食材の確保等、問題も多く発生しことから、一区切りつけるためにも、本年度より坊勢漁協に全面的に引き継ぐ事となった。また、兵庫県協同組合連絡協議会(JCC)との連携にも挑戦し、様々な分野の方々と交流を行った。今後は浜への産地見学などを企画し、環境や漁業、地産地消について大学生だけでなく様々な分野の方々に学んでもらいつつ交流に力を入れたい。」と挨拶しました。

総会は、平成28年度の事業報告、平成29年度事業計画の他、「ガザミふやそう会」の報告・事業計画・役員改選の議案が審議され、すべて原案通り承認され、新たな大西会長体制2期目がスタートしました。

総会後の学習会では、兵庫県立水産技術センター五利江主席研究員が「鹿ノ瀬の今昔30年」、と題した講演が行われました。鹿ノ瀬の昭和62年と平成28年の海底地形の比較や底質・海流・生態系などの特性など、鹿の瀬が多くの魚介類の餌となるイカナゴの産卵・育成の場として重要であることを講演いただき、参加者は熱心に聴き入っていました。

最後に、恒例となったビンゴ大会が行われ、昨年より豪華でビックな賞品が用意されるなか、大いに盛り上がりました。

(文：摂津播磨地区漁業協同組合青壮年部連合会)

学習会の様子

ビックな賞品

山崎会長再選

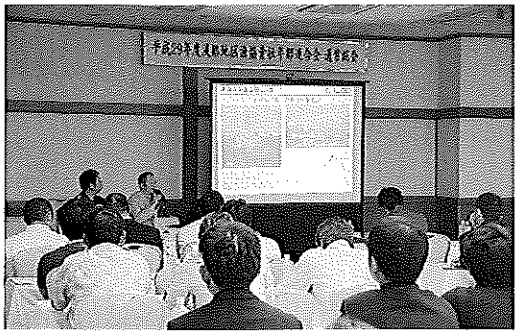
「淡路の魚」PRの積極的な展開を確認

～平成29年度淡路地区漁協青壮年部連合会 通常総会開催される～

5月26日(金)、洲本市内のホテルにおいて、淡路地区漁協青壮年部連合会(17会員 部員計269名)の平成29年度通常総会が開催されました。山崎 大輔会長(JF淡路島岩屋)の挨拶、来賓紹介に続いて、谷副会長(JF南あわじ)を議長に議事が進められ、平成28年度事業報告、平成29年度事業計画・役員改選などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組みなど7つの項目のうち、再選された山崎会長を中心に「淡路の魚」のブランド化を積極的に進めていくことが確認されました。

総会終了後の学習会では、第五管区海上保安本部 大阪湾海上交通センター 運用管制課長 河野氏並びに安全対策官 小原氏より「大阪湾海上交通センターの業務内容」「明石海峡における海難防止について」と題した講演がありました。明石海峡の交通状況や実際に発生した海難事故の事例、南海トラフ巨大地震が発生した時の津波シミュレーションなど分かりやすく講演して頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。

(文：淡路地区漁協青壮年部連合会)



講演の様子

平成29年度 淡路地区漁協女性部 連合会通常総会・研修会

5月20日（土）、淡路水産センターにて、平成29年度淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。

9会員24名と県洲本農林水産振興事務所 眞鍋 厚所長補佐、（一社）淡路水交会 東根 壽会長、JF兵庫漁連 田中 稔彦参事はじめ来賓10名の出席のもと、平成28年度事業報告及び収支決算、同29年度事業計画及び収支予算、役員の任期満了に伴い新役員が承認され滞りなく終了しました。

総会の後、JFなぎさ信漁連 黒田 俊文理事長を講師に迎え、「お母ちゃん 頑張ってな Part3」と題して、兵庫信漁連と和歌山信漁連の合併についてのお話を中心に学習しました。

水産業協同組合法を例に挙げ、漁協や系統信用事業の仕組みから合併について学びました。時折、笑いを交えながらの講演に、女性部の皆さんの関心はとても高く熱心に受講されました。

（新役員のご紹介：敬称略 ●会長 森 武美（JF福良・再任）●副会長 松帆 悦子（JF淡路島岩屋・再任）、中川 智子（JF津名）●理事 高瀬 篤子（JF仮屋）、森 好子（JF森）、小溝 三鈴（JF育波浦）、濵口 泰江（JF沼島）●監事 溝尾 房子（JF浅野浦）、松谷 直子（JF南あわじ）

（文：淡路地区漁協女性部連合会）

黒田理事長の講演

地産地消の推進・国・地方・漁業者の連携強化を図る

～一般社団法人 淡路水交会通常総会 開催～

一般社団法人 淡路水交会（東根 壽会長：JF淡路島岩屋）は、6月2日（金）に、洲本市内のホテルで第7回通常総会を開き、17会員の代表者や県議会、行政機関、系統団体からの来賓出席者ら46名が出席しました。

審議に先立ち、東根会長は「地産地消の推進を通して地魚の鮮魚販売拡大に繋がるように取り組む。瀬戸内海環境保全特別措置法の改正・施行により、今後は豊穣の海を取り戻し、漁業者が安心して漁業経営を行うことが出来るように、10年・20年後の将来を見据えた対策をたて、国・地方と漁業者が一体となって取り組む。」と挨拶しました。

続いて、兵庫県議会永田秀一議員、山本悦夫淡路県民局副局長、田沼政男JF兵庫漁連会長がそれぞれ来賓を代表し祝辞を述べられました。総会はJF南淡 橋本組合長を議長に選出し、平成28年度事業報告、平成29年度事業計画、役員の補欠選任などの議案が原案通り可決承認された後、社領 弘副会長（JF一宮町）の閉会の挨拶で終了しました。

（文：一般社団法人 淡路水交会）

淡路漁協職員協議会 通常総会

淡路漁協職員協議会（ＪＦ洲本炬口・浜端正司会長 会員数１０３名）の平成29年度通常総会が、６月３日（土）に洲本市内ホテル（ザ・サンプラザ）にて、会員79名（委任状47名含む）及び来賓11名出席のもと開催されました。

開会にあたり浜端会長が挨拶をした後、来賓を代表して、まず東根壽淡路水交会長が、「平成28年度海苔養殖は好調であったが、漁獲量減少など漁業を取り巻く環境の厳しさに変わりはない。系統業務や補助事業など増大する事務をこなされる皆様のお蔭で、組合員は安心して漁業に専念でき誠にありがたい限りである。今後ともよろしくお願いします。」と祝辞を述べました。続いて、洲本農林水産事務所 真鍋厚所長補佐兼水産課長は、「従前に比し補助事業に係る事務量が増えているが、淡路地域の活性化のためよろしくお願いします」、また、ＪＦ兵庫漁連 田中久善指導部長は、「漁協があってこそ、広域浜プランなどを有効に活用できる。県漁連では地域ごとの組織強化を目指している。あわせて、コープこうべと連携した『地魚プロジェクト』への理解と協力もお願いします。」と話しました。

次に、浜端会長が議長となり、平成28年度事業報告、貸借対照表、収支計算書ならびに剰余金処分案、平成29年度事業計画及び収支予算設定、平成29年度会費賦課額及び徴収方法決定の３議案が審査され、原案通り承認されるとともに漁協基盤強化を目指すことが確認されました。総会終了後に催された懇親会は終始和やかに参席者の交流が行われ、日本漁船保険組合兵庫県内海支所 畠田さかえ副支所長が「漁協と系統が一緒になって頑張りましょう」と締めくくりお開きとなりました。

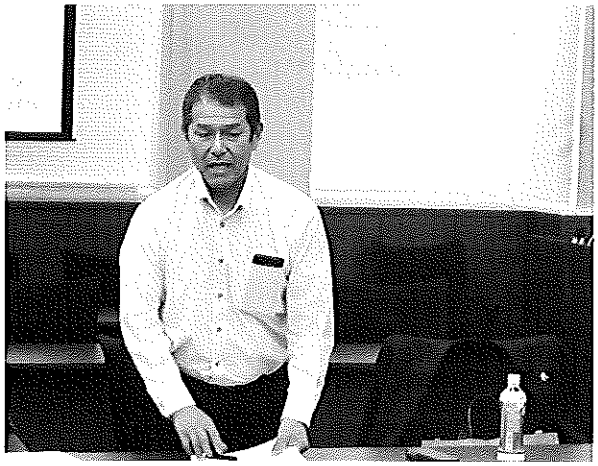
なお、議事に先立ち、職員永年勤続功労者表彰が行われ、次の方々に表彰状が贈られました。

大下由美子さん（ＪＦ津名）、竹内雅人さん、中村良市さん、辻久美さん（いずれもＪＦ育波浦）

大輪田塾ＯＢ会 摂津播磨地区ＯＢ会を開催

昨年発足した大輪田塾ＯＢ会の摂津播磨地区ＯＢ会は、５月13日（土）、兵庫県水産会館において第１回目となる同地区ＯＢ会を開催し、淡路地区ＯＢ、事務局併せ15名が参加しました。

戎本代表幹事は「大輪田塾は12期となりＯＢも50人を超える大所帯となった。ＯＢの力を結集し、将来の兵庫の水産業を担っていく組織としたい」と挨拶をされました。



また、話題提供として、兵庫県水産技術センター大石専門技術員より「決算報告からみる漁協経営」について、財務諸表や財務指標の見方、貸借対照表から読み取れる経営タイプの判別ポイントについて話され、各自が所属する漁協の業務報告書を見ながら活発な意見交換がおこなわれました。

協同組合間協同で地魚の普及へ
コープこうべ 水産チーフ 産地学習会

5月18日(木)コープこうべの水産チーフ(店舗水産担当者)と商品部(バイヤー)、JF但馬 組合員、女性部、職員との学習交流会を行いました。

コープこうべ 水産チーフとJFとの交流学習会は平成28年2月から行っており、今回で3回目を迎えます。

この学習会は兵庫県下の地魚をコープこうべの店頭で販売し、同時に魚食普及活動を行う、「ひょうごの地魚推進プロジェクト」を進める中で、実際に店舗の売り場で日々業務を行っている水産チーフに浜を知ってもらう事で、ひょうごの地魚の良さやその背景をより多くの消費者に伝えてもらうために開催しています。

当日はJF但馬 女性部による料理教室を行い、交流しながら昼食を取った後、ワークショップを行いました。

カニの捌き方学習

ワークショップはコープこうべの水産チーフからのインタビューにJF但馬 組合員・女性部・職員が答える形で進められました。

ここで得た知識や気づきを自分たちの店舗に持ち帰って、周りの職員や消費者に伝える学習会の講師を務めるまでが水産チーフの学習会のカリキュラムの一環となっており、水産チーフたちは熱心に生産現場の思いや消費者に伝えたいことをインタビューしていました。

ワークショップの様子

このグループワークは毎回、終了後に水産チーフのモチベーションが上がったという声をいただいています。

このように、魚を実際に消費者に販売している、消費者との最終窓口を担う方にいかに兵庫の魚のよさを知って、愛情を持ってもらうかが魚食普及の大きなカギとなるのではないかと感じています。

今後も、より多くの消費者に兵庫の魚を食べてもらうために、この取り組みを継続してきたいと考えています。

(文：JF兵庫漁連 SEA-CLUB)

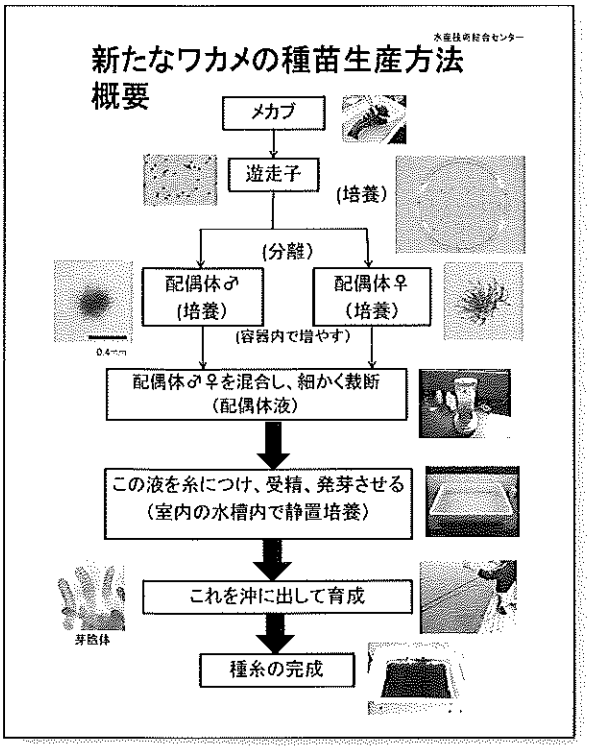
実食

ワカメの生産安定化に向けた新たな取り組み
～先進技術を用いた種苗生産への挑戦～

日本有数の養殖ワカメの産地、丸山漁港（南あわじ市阿那賀）では、近年の温暖化による種苗不足を受けて、漁業者が最先端の技術を用いたワカメ種苗の人工培養に取り組んでいます。

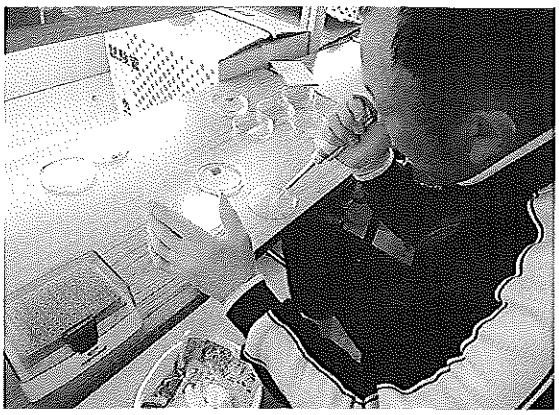
西日本最大の生産規模を誇る同漁協では、主に徳島県鳴門市の業者から種苗を購入してきましたが、温暖化等の影響により夏場の水温が上昇し、数年前から良質な種苗の確保が難しくなってきていました。

こうした難局を乗り越えるべく、同センターの二羽恭介主席研究員からの指導を受け、2016年から本格的にワカメの「フリー配偶体」の培養を開始しました。従来の方法では、環境水温が一定に達すると自然に発芽し、それに合わせて養殖が行われていましたが、この「フリー配偶体」を用いた方法では温度管理が可能な室内で配偶体を培養することで、適切な時期に交配でき、沖出しのタイミングを調整することができます。また、雌雄の配偶体を分離して培養するため、優良種苗の掛け合わせも可能になるといったメリットもあります。



漁具倉庫の一部を漁業者自らが改装して作業スペースを確保し、配偶体の培養庫（インキュベーター）を導入することで、種苗生産に必要な環境を整備しました。そして、春先に漁業者自らが顕微鏡を覗きながら遊走子取りと雌雄の配偶体の分離を行い、培養庫の中で夏の期間培養します。秋口になると、培養した雌雄の配偶体をミキサーにかけて混合し、いわゆる「種糸」に付着させ、受精・発芽の環境を整えます。種糸での発芽が確認できたら、仮沖出し、本沖出しと段階を踏んで純丸山産人工種苗による良質なワカメが生産されます。

顕微鏡を用いた雌雄配偶体分離作業


遊走子の取り分け作業

2016年度は本取組を開始して一年目にもかかわらず、当地区で使用する種苗のうち約3割を自家生産することができました。しかし、顕微鏡やピペットを用いるなど慣れない作業による培養の不調や、仮沖出し時の食害等、思うように行かない苦労も経験しました。今年度は、より正確な技術の習得に励むとともに、種苗の生産規模を拡大し、最終的には種苗自給率100％を目指していきます。

（文：兵庫県淡路県民局洲本農林水産振興事務所 水産課 職員 高倉 良太）

培養された雌雄配偶体

海の事故ゼロキャンペーン

海難ゼロへの願い

全国海難防止強調運動（7／16～31）はじまる！

お知らせ

平成29年４月６日付で各組合にメールにてお知らせしておりますとおり、兵庫県漁連ホームページより系統団体行事予定表を確認することが出来ます。

兵庫県漁連ホームページ　http://www.hggyoren.jf-net.ne.jp

会員・職員 をクリックし、会員・職員ページへ移動し、パスワードを入力することで系統団体行事予定表を確認できます。

不詳な点は振興基金までお問い合わせください。　０７８－９１９－１３３１

海難防止研修会の開催

兵庫県広域水産業再生員会は、6月5日に兵庫県水産技術センターで、海難防止研修会を開催し、JFをはじめ関係団体約80名が参加しました。

本会は、ライフジャケット（LJ）の着用義務拡大が平成30年2月に控え、ライフジャケットの着用推進と操業安全を目的に開催しました。

はじめに、神戸運輸監理部 内山課長からは、「ライフジャケットの着用義務拡大」について、拡大された範囲や点数制度の説明が行われました。

次に、神戸海上保安部 戸川専門官からは「最近の事故事例と海難事故防止」について、漁船海難事故は船同士の衝突が最も多く、その原因はの多くは選別作業、漁具修理等の見張り不十分が多くを占めており、LJの非着用時の死亡率は着用時に比べ約4倍になる等説明が行われました。

最後に、大阪湾水先区水先人会 濵地様からは、旅客船船長や水先人の経験に加え気象予報士としての知識から、「船舶運航と気象予報」について、船が転覆しやすい時の波の状態や天気図だけでは分からない局所的な突風や三角波等の悪天候となる理由などが紹介されました。また、最後に「船舶運航では99％の安全でも、残りの1％の不安要素が大事故につながることもあるので、ライフジャケットを100％着用いただきたい。」と締めくくられました。

海難事故をなくそう！

ライフジャケットを着用しよう！

膨張式ライフジャケットは定期的なメンテナンスが必要です！
最近はボンベが下部に配置されたタイプもあり、首回りが楽になっています。
是非、着用してください

“平成30年2月 ライフジャケット着用義務化はじまる!!”

～安全をサポート～ 浮力合羽はお持ちですか？

浮力合羽はJF兵庫漁連が開発したもので、皆様の安全をサポートします。
浮力は充分にあり、動きやすいように工夫されています。
まだお持ちでない方は是非！
※国土交通省の型式承認試験基準に合格したものではありませんので、一人乗りの漁船の場合、ライフジャケットを着用してください。

◀モデル：淡路漁協青壮年部連合会の皆さん 平成29年通常総会にて

ライフジャケット・浮力合羽の購入は
所属JFかJF兵庫漁連のり海藻部資材担当（078－942－9272）までお問い合わせください

兵庫県知事選挙

投票日　7月2日(日)
投票時間　午前7時～午後8時　※一部地域を除く

投票日当日、仕事・買い物・レジャーなど予定がある方は、**期日前投票**をすることができます。

期日前投票の出来る期間
6月16日（金）～7月1日（土）

詳しくは、住所地等の市区町選挙管理委員会へお問い合わせください。

みなさんそろって投票しましょう!!

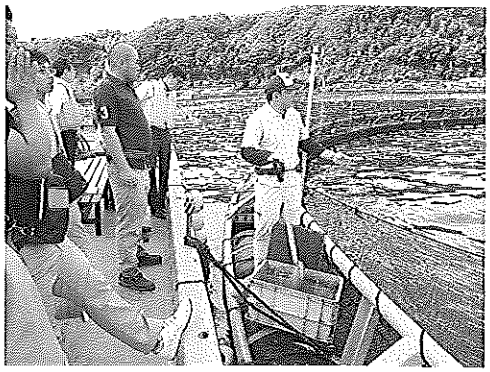
大輪田塾　第13期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」は、めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはＪＦ組織を支えていける人材、つまり「浜のリーダー」育成を目的に始まったもので、多くの修了生が、ＪＦ組合長・理事などを務め、地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1～2回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

大輪田塾では、現在、今秋入塾される第13期生を募集しています。

皆様のご応募をお待ちしております。


近大養殖マグロ視察（H 28. 8）

水産会館での講義の様子

◎応募資格
①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
②原則として、ＪＦ職員歴10年以上かつ45歳未満
のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者

◎在籍年限
原則2年（最長3年）

募集は8月末まで。その後、面接を行い、運営委員会の選考を経て、10月（予定）に入塾式を行います。
（詳しい募集要領は各ＪＦ・団体宛に通知させていただきます。）

問合せ先（事務局）（一財）兵庫県水産振興基金
〒673-0883　明石市中崎１丁目２－３　TEL ０７８－９１９－１３３１

米の需要拡大や担い手育成の強化を／

県幹部とJAグループが意見交換

JAグループ兵庫と兵庫県は、担い手育成や農地の有効活用など本県農業振興のための重要課題に連携して取り組むため、これからの農業施策のあり方について意見を交わしました。5月15日、県農業会館で開かれた意見交換会に、県から藤澤崇夫農政環境部長をはじめ関係局・課長らが、JAグループからはJA組合長と県連合会役職員が出席しました。

県農政環境部から、平成29年度の主要農業施策をはじめ、①30年産以降の米生産の方向、②主食用米オリジナル品種の育成、③県都市農業振興基本計画について説明されました。

JA組合長から、米に関する課題については、「国が種子法を廃止したが、本県では種子生産と確保をしっかりしてほしい」「米の消費量は減っているが、消費県である本県は需要拡大運動にもっと取り組むべき」などが出されました。

また、担い手育成の課題については、「若い後継者がICT等を活用した農業に取り組めるよう支援してほしい」「担い手が受託した水田の用水確保のため、地域合意を得やすくする仕組みが必要」など、さらに都市農業振興については「市町が都市農業振興基本計画を策定するよう県から働き掛けてほしい」などが出され、県幹部と活発に意見交換をしました。

県とJAグループとの連携の重要性などについて話す藤澤農政環境部長

http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/

ハート基金から「ひょうご若者被災地応援プロジェクト」へ100万円を拠出

生活協同組合コープこうべは、4月19日、ひょうごボランタリープラザを通じて「ひょうごふるさと寄附金」として100万円を「ハート基金（コープこうべ災害緊急支援基金）」より拠出しました。拠出金は、ひょうごボランタリープラザが実施する「ひょうご若者被災地応援プロジェクト事業」の経費として、被災地の復興支援や被災地支援を担う人材養成に役立てられます。

これを受けて4月28日、コープこうべ住吉事務所で知事感謝状贈呈式が行われました。

ハート基金（コープこうべ災害緊急支援基金）

コープこうべでは、阪神・淡路大震災以降、国内外で発生した自然災害に対して緊急募金を行い、被災地を支援する活動に取り組んできました。しかし、緊急募金は、災害発生後に取り組むため、どうしても現地に届くのに時間がかかります。そこで、「少しでも早く届けたい」という組合員の思いから1999年1月に「ハート基金（コープこうべ災害緊急支援基金）」を設立しました。この基金は、組合員の任意組織である「基金運営委員会」が運営し、初期の救援活動を中心に、被災地・被災者が必要とする支援に活用されています。

ひょうご若者被災地応援プロジェクト事業

大学・高等学校・専門学校等に通う学生など、ひょうごの若者が継続して地震や豪雨災害等の被災地を応援するプロジェクトに対して経費を助成することにより、被災地復興を支援するとともに、今後の被災地支援を担う人材養成を行う事業。

（左から）コーピー、大谷敦子 コープこうべ理事・コープこうべ災害緊急支援基金委員長、高橋守雄 ひょうごボランタリープラザ所長、橋本正人 兵庫県企画県民部 県民生活局長

http://www.coop-hyogo-union.or.jp/

お詫び

平成29年5月発行の拓水第727号で下記について表記に誤りがありました。
関係者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしました。ここに訂正して、お詫び申し上げます。

3頁「平成29年県功労者表彰」の橋本幹也さま役職名
【なぎさ信用漁業協同組合連合会】
誤 代表幹事 → 正 代表監事

ひまわり

旬に想う

写真と文
遊方子

毒薬は口に苦し

◆『良薬は口に苦し』というが、古代中国では「良薬」を「毒薬」に変えた用例が多く見られ、つまり「毒薬は口に苦し」となる。この事から両句は、殆ど同じ意味で使われたようである。どんな薬物もプラス面とマイナス面を内蔵しており、用い方で毒になり、薬にもなる意であろうと思われる。薬＝毒なのである。人体にとって薬は異物であり、出来得る限り体内へ入れぬに越した事はないが、疾病と判れば速やかに薬石を投じ、それを退散させる。漢方の本草学であれ、西洋医学であれ、薬物を用いて対処しなければならない。漢方薬は自然物を用いるから副作用無しと誤解するフシがあるが、飛んでもない誤りだ。

◆漢方の発祥は、中国の伝説上の《神農》に始まる。五千年以前、神農は有らゆる湧き水の苦さや甘さを嘗めて確かめ、また一日に七十種類の有毒な草を嘗め、百草の慈味を究め、薬になる草を見分けた。今も多くの人から崇められている薬学の神様だ。中国最古の薬物書『神農本草』四巻に、三六五種が掲載されており、此れが薬物学の基礎となり、王朝を追う毎に薬草の種類が増えた。しかし、代々の医家らは実験的な裏付けが無いままに伝聞を踏襲したともいう。薬物学を「本草」というのは、草類に薬となるものが多かったためである。

◆漢方では、病状が進んで体力負けした者を「陰」、発病して間がなく病気に十分対抗できる者を「陽」とする。また、人間の体質を虚と実の2通りに分け、病気に罹り易い人を《虚》とし、丈夫な人を《実》とする。陰と陽、虚と実の区分を見極めて処方を見立てる。患者を肉眼で観る望診、耳で患者の声を聞き鼻で体臭や排泄物・分泌物を嗅ぐ聞診、既往症や症状を問う問診、患者に直接触れる切診の《四つの診断》から判断し、どの薬草を使うかが決まる。西洋医学で解決できない場合、漢方に頼ってみるのも一つの手立てだといえよう。

◆病気は「治るもので治すものではない」という。生体には自然治癒力が備わっており、薬はそれを助長して回復を促すために使う。気休め薬を使って自然治癒力を高める方法もあるらしい。服んでいるという意識を持つ事が大切なのだそうだ。筆者は完治不能な緑内障と糖尿病を患っている。眼病は主治医に歩調を合わせ、指示された点眼薬を時間を間違えずさす。そして10年来、毎日8種類の薬を朝・昼・晩に服用、完璧な薬漬けである。次々と新薬が作られ、簡単には死ねない時代だ。高齢者も薬物の新知識を知るべきと、難解な本を開いてはいるが、年齢と共に体力・視力も確実に低下、限界をヒシヒシ感じている。

大輪田塾だより

5月は2回開講 4講座

5月の大輪田塾は2日（火）と23日（火）の2回開講されました。

2日は2講座開催されました。「漁船法概要」では、県水産課漁政班 米澤 孝康氏から、漁船法の内容や漁船登録や総トン数など幅広い内容で講義が行われました。また、「漁村地域活性化と地域リーダー」では、鹿児島県立短期大学商経学部元教授 田中 史朗氏より6次産業化や農水商工との異業種連携、活力あるコミュニティ形成の重要性についてお話をききました。

23日も2講座開かれ、「石油価格と国際石油情勢について」では、日本エネルギー経済研究所 石油情報センター西村 好彰氏から、石油製品価格と石油需要やエネルギー政策と石油産業の動向についてのお話をききました。また、「海藻・海草を増やすには～藻場造成の現状と課題～」では、近畿大学水産学科 講師中西敬氏から、温暖化により生物の活動に変化が生じ、食害により磯焼けが起こる事例やアルギニンを練りこんだコンクリート漁礁等の話に、塾生は最後まで熱心に聴き入っていました。

磯焼けのメカニズム

漁村地域活性化と地域リーダー講義

拓水 TAKUSUI 6 June
発行：一般財団法人 兵庫県水産振興基金
〒673-0883 明石市中崎1丁目2番3号 兵庫県水産会館2F
TEL 078-919-1331 FAX 078-919-1336